

パンタナール通信

南北米福地開発協会

会報

2008年9月1日

60号

家庭にて、パンタナールで育つニーム、
モリンガ、ジャトロファの植樹を！！



7月23日播種、三日目に発芽、発芽後15日で平均35cm
に生育したモリンガの苗(於:四国中央市)

7月23日播種、5日目に発芽、発芽後7日目で平均
15cmに生育したニームの苗(於:四国中央市)



先日いただきましたモリンガとニームの種を蒔き育成中です。どちらも順調に育っていますので最初のレポートを入れます。

モリンガ

* 7月23日、530粒播種、459本発芽 (発芽率87%)

* 7月26日発芽

* 発芽後5日で15cm、15日で平均35cmに成長

発芽条件：最高気温35 前後、毎日給水、市販の腐葉土および遮光ネット使用 (遮光率80%)

ニーム

* 7月23日、65粒播種、51本発芽 (発芽率78%)

* 8月3日発芽

* 発芽後7日で平均15cmに成長

発芽条件：モリンガと同じ

(地球の緑を守る会 高津理事長より)

今後の予定

- *モリンガの苗をポットに移植する。
- *ポット苗のままビニールハウスの中で越冬させる。

*越冬の確認ができたら漸次規模を大きくして栽培する。

所感：静岡太平洋側、近畿南部、中・四国

瀬戸内沿岸以南、九州地域ではビニールハウスでマンゴーを越冬させ、栽培が可能だということなので、おそらくモリンガも大丈夫と思われます。現在、香川県三豊市周辺でビニールハウスを借りれるところを探しています。この地域は昔から花の栽培が盛んな所で、ビニールハウス群が多く見受けられるため、条件に適っていると思われます。（高津より）



奥平里美さん（学生）が植えたジャトロファ（ジャトロファがこんなに大きくなりました。）

レダよりの報告（飯野先生より）

今日八月一日、マリア・アウキシラードーラに三石先生と行ってきました。

公道に沿って点在する三十軒ほどの小屋（家）に五十一家族が住んでいるとのことで、人口は不確かですが、百～二百人くらいかと思われます。

（村長も把握していない…）

コロニーの村長のような立場の人はティグニアさん、四十二歳のコロッとしたおばさんでした。村の子供の数は六十人、その内の生徒は三十人ということでした。コミュニティのコンセンサスはよく出来ていないと語っていました。

十年前から入植している人もいるようですが、四年前から少しづつ増えたそうです。政府や直轄のオリンポ市はこの村をほとんど忘れている感じです。

インフラは全く整備されていません。水はタハマールのたまり水を人も畜も飲んでいます。電気は来ていませんが、家によつては自家発電機を持つているところもありました。掘立小屋のような家でも、バラボラアンテナ（テレビ用）が庭にテンと据え付けられているのを見ました。単車やトラックを持つているところもありますが、公的なトラクターは故障で使えないと言つていました。

今最も必要とされているのは、無線ラジオ用のソーラ・パネルだとある婦人は言つていました。バッテリーが切れしていく使いないため、電話も全く村は孤立しているからです。

学校は場所が変わつてきました。新しいところは五〇〇mほどバイアナグラ寄りに行つたところにあります。一人の先生が月二〇〇ドルでアシンションから来ているそうですが、ちょうど数日間留守でアシンションに帰つているとのことですね。学校は掘立小屋の一教室で黒板もありました。設備、雰囲気とも今まで訪問したインディヘナの村と同じです。共通してないのは、教科書、参考書です。

もちろん文具類も不足しています。聞けば「なにも無い！」と答えが即座に返つてきました。



第八回青年ボランティアが八月末に訪問する予定



期待して待つ子供たち

第8回国際協力青年ボランティア隊を迎える準備を整えているエスペランサ村

八月十日三石先生とエスペランサに行つてきました。メインはボ隊の植樹の件です。カシケ（酋長）、学校長、他の村の人々を含めて話し合いと現場確認を行いました。

最初に七月、私と三石先生で「こういうボ隊の植樹活動の計画があるが、この村では受け入れ体制があるか」という交渉に行つた時に説明したプランに基づき、村長は積極的に取り組んでいました。

現状は、マウンド（八〇cm×八〇cm×七〇）は既に三〇〇個以上造られていました。

森から枯葉や腐葉土を運んで来て入れてあると言つていきました。

マウンドの場所は、大きく分けて三ヶ所、ひとつは学校敷地及び隣の協同組合が、金網の塀で囲まれていて、その内側に二十四個のマウンドが作られています。二つ目は、一トの土地についてです。村の奥の方の空き地くらいに考えていましたが、何と船着場から上陸したすぐの正面の土地（東西四〇m×南北七〇m）に、既に柵の柱を七〇本、門を一つ、造り終わっていました。アランブレーを十本通す予定で、各柱はドリルで穴が10個づつ開けられました。村にとつては正に一等地、正面の顔になるところを公園のようにしたい考えです。（飯野報告）



森林破壊の実態を環境セミナーで学び、植林活動を充実させて行きましょう。

今まで、人間を守り、育ってくれた地球の美しい環境を保持し、再生していくため、南米、パラグアイでの植林にご協力ください。

環境セミナーに関心のある方は事務局に連絡ください。されば詳しい案内状を送ります。



レダの支流に生息するカビバラの家族

(2008年8月飯野撮影)

日時 2008年9月21日(日)

午後2時から午後6時

場所 大山街道ふるさと館 3階 第二会議室

参加費 2,000円(資料)

研修内容

前半

「環境問題とパンタナール植樹活動」

NPO地球の緑を守る会 事務局長 戸石文夫

後半

「パンタナールエコツーリズムの魅力」

南北米福地開発協会 理事 岩澤春比古

多くの皆様の温かい第八回国際協力青年ボランティアへの御協力心から感謝します。パラグアイの隔絶された地域に住むインディビナの村への植樹並びに学校教材、衣類を届けてまいります。九月五日になります。九月五日には、十月份号の紙上で報告致します。九月五日で報告致しますので期待してください。

(柴沼より)



南北米福地開発協会 事務局
〒113-0001
神奈川県川崎市高津区
溝口三丁目十一番地
会費納入 電話 ○四四一八一九一二八二一
一〇一八 ○一七七六八〇四七一
FAX 郵便口座 八二九一二八二一〇

E-MAIL office@asd-nsa.jp
ホームページ <http://www.asd-nsa.jp>
代表 柴沼邦彦